

奈良言友会会報

まほろば



大和三山 遠望

第9号

平成25年12月1日発行

第2回 ことばの親子交流会

天羽 郁子

7月27日、奈良言友会主催で、「自分ひとりじゃない！ 仲間が存在が、吃音の子どもたちの生きる力を育む」と願って、「第2回 ことばの親子交流会」を生駒山麓公園で実施しました。

奈良県内から、吃音のある子どもやその兄弟姉妹17名、保護者10名の参加、スタッフとして、奈良言友会員6名、通級指導教室の担当者5名、学級担任1名、ボランティアで参加の養護教諭1名、看護師1名、そして、京都・名古屋・滋賀からの言友会メンバーの協力参加もあり、盛会となりました。

保護者研修会では、二人の言友会員の体験談を聞いてから話し合いをもちました。

Kさんからは、学校での辛い体験、親に対しては申し訳ないと思う一方で、怒りをぶつけたこと、死のうと思ったことも…。その後、吃音のある自分だからこそ、他の人の役に立ちたいと思うようになり、30歳を過ぎて言語聴覚士の養成学校に入ったという体験を語ってもらいました。Tさんからは、吃音があっても、がんばったら認めてくれた体験から、どもることがいけないのではなく、吃音をおそれて自分の殻にこもることがいけないのだと思うようになったこと。結婚して母親になったが、こどもに吃音があることから、子どもにどもっていい環境をつくっていきたいという話をしてもらいました。青年当事者の話を初めて聞くという保護者もありました。心を打たれ、涙ぐんで聞いている方も多く、これから子育てをする上での指針になったと感想を述べられていました。このあと、保護者、ことばの教室の先生、言友会員が、それぞれの立場から家での関わり、学校での関わりなどについて意見を交換し、有意義な話し合いになりました。

保護者研修会と同時進行で、子どもたちは、低・中・高学年グループに分かれ、言友会メンバーや他のスタッフとともに、生駒山麓公園内のフィールドアスレチックに挑戦しました。いつもは自分ひとりだけが吃音があると感じて、学校生活を送っている子どもたち。吃音のある同年代や青年と交流ができ、すっかり打ち解け、「楽しかった、来年も友だちやお兄さんたちに会いたい」と語ってくれました。

その後、保護者チーム子どもチームが合流して、バーベキューをしました。保護者の方が、「一緒に火をおこし、ご飯を食べ、より一層つながりが深まった。」「言友会の方が、それぞれ人間として魅力的で、吃音があることが問題ではないと感じられ、子どもの将来に見通しが持てた」と明るい表情で話されていたことが印象的でした。

ことばの教室の担当者である私たちも、保護者の方々も、準備から会の運営まで、吃音のある子どもたちのために取り組んでくださっていた奈良言友会の方々に感謝の思いでいっぱいです。それとともに、参加してくれた子どもたちが次の担い手として、成長してくれることを願っています。

(全言連ニュース(2013/9/10)より転載)

吃音セミナーin奈良 報告

堀 茂

10月6日、橿原市の奈良県社会福祉総合センターを会場に「吃音セミナーin奈良 ～吃音についての理解と支援を共に考える～」が奈良言友会の主催で開催されました。これは国際吃音啓発の日（10月22日）を記念して各地9つの言友会が歩調を合わせて実施した催しのひとつで、吃音への理解を深め、吃音のある人が生きやすい社会をつくっていくためのひとつの試みとして行いました。

奈良言友会では世話人を中心にして準備を進め、当日は9名の奈良言友会員とことばの教室の先生方など19名の方々スタッフがセミナーの運営、進行に当たりました。

また、このセミナーでは奈良県中央善意銀行の助成金をいただくことができ、大きな支援になりました。

この催しのPRは、大学、図書館、駅へのポスター掲示、チラシ配置。言語聴覚士のいる病院、施設、言語聴覚士養成学校への案内、ことばの教室を通して吃音のある子どもの保護者、教職員への案内、新聞各紙への記事掲載、奈良テレビの事前の放送、などを通して行いました。

当日の参加者総数は116名。内訳は、教育関係専門職17名、医療関係専門職13名、言語聴覚士養成校学生22名、吃音当事者29名、保護者28名、その他7名です。名古屋言友会や京都言友会など各地言友会からも多くの参加者がありました。

午後1時に開始（終了5時）前半は分科会、後半は全体会として、真剣な中にもなごやかに進行了しました。

1) 前半 研究、現場、臨床で豊富な経験を持つ3人の方々による講演と相談会。

第1分科会 医療・教育専門職に向け、菊地 良和氏（九州大学病院、医師）の講演

第2分科会 成人の吃音当事者に向け、吉澤 健太郎氏（北里大学東病院 言語聴覚士）の講演と相談会

第3分科会 吃音のある子どもの保護者に向け、脇 豊明氏（上賀茂小学校、ことばの教室担当教諭）の講演と相談会

2) 後半 全体会・パネルディスカッション

「吃音についての理解と必要とされる支援を考える」をテーマに分科会の3講師に奈良言友会の青木さんがパネラーとして加わりました。4人のパネラー発言の後、フロアから専門職、保護者、当事者それぞれの立場から活発な質問がありました。

実施したアンケートから、「今まで知らなかったことを知り、考える機会になった」「来談者への対応の仕方を学んだ（専門職）」「子どもへの親の対応の仕方が具体的によく分かり参考になっ

た（保護者）」「様々な立場の人の意見が聞けてよかった」「当事者の悩みなど本音の音が聞けてよかった」「流暢性を高める具体的な対応が分かった（当事者）」「会場に笑いもあり、なごやかでよかった」などの声が寄せられました。

今回の催しは参加者の間で好評でしたが、これは多くの方の協力があってはじめてできたことで、ご協力いただいた方々に心から感謝したいと思います。



“The 11th conference on occasion of International Stuttering Awareness Day in Czech republic” に参加して

青木 明大

10月25日にチェコ共和国、第2の都市ブルノで、 the 11th conference on occasion of International Stuttering Awareness Day in Czech republic に参加してきました。日本からは福岡・北九州言友会の菊池良和さんと東京言友会の山口徳郎（海外での通称：パコ山口）さんが参加しました。菊池さんは、吃音のある子供の問題についてのワークショップと日本の吃音のセルフヘルプグループについての講演、パコさんは吃音の改善のために始められた講談についてのワークショップ、私は講演ことばの親子交流会について講演を行いました。

学生の頃に一度、学内で英語でプレゼンをした時以来、私は四年ぶりに英語でお話をしました。「英語の方がどもらない」という方に時折お会いしますが、私は英語の方がどもらます。講演中は非常にどもり、ほろ苦い海外講演デビュー!?!となりました。参加者の大半はセラピストでしたので、ことばの親子交流会の話や出来る事やセルフヘルプグループの魅力をお話することで、チェコから

遠い日本の吃音者を取り巻く環境を紹介出来たのではないかと思います。日本でも大活躍の菊池さんのワークショップが大盛況なのはもちろんの事、パコさんはワークショップの後に、サインまで求められる盛況ぶりでした。

滞在中はカンファレンスを主催している、身体と言語・聴覚の療養施設であるLOGOの方々に大変お世話になりました。日本語のガイド付きの観光、豪華で美味しい食事、そしてカンファレンスの後には、歴史ある劇場にて演劇版”英国王のスピーチ”の鑑賞をさせて頂きました。ヨーロッパの煌びやかな文化も体験させて頂きました。LOGOの方々の心温まる心遣いに、思わず涙した事は一生忘れる事は無いでしょう。

もちろん、沢山のチェコの吃音当事者の方との交流も楽しむことができました。自分の周りを見回すと、吃音が無い人の中には、うわさ話や仕事の愚痴ばかり話す人たちが沢山います。私たち吃音当事者は、世界中の仲間たち吃音の話題で共感し合えます。今回のチェコ訪問で、吃音者はグローバル人材であると確信しました。インターネットや格安航空会社の登場により世界は狭くなりました。私は吃音を武器に、狭くなった世界を満喫しようと思います。（そのためには、英語をもっと勉強しなくては・・・）



チェコ プラハの町並み

例会報告

9月1日 話の達人を招いて

参加人数8人

担当：山崎

報告：堀

今日の例会にゲストとして来ていただいた小路さんは山崎さんと同じ職場の別の課の課長さんですが、話し方のコツのようなことを話していただけるのかと思ったら、そうではなく、主に他（ひと）の話の聞き方、相手への心くばりが主なことでした。はじめ私はそれが意外でしたが、話を聞いていて大いに共感しました。

例えば、カラオケの会では他（ひと）が歌うのをちゃんと聞き、終わったら拍手をする、話合いでは、相手の話にうなづきながら耳を傾けて聞く、宴会では、自分が話すよりも他（ひと）の話を聞く、乞われてはじめて自分から話をするようにするなど、他（ひと）のことをまず考える、他（ひと）をたてる、他（ひと）をうやまう気持ちをもって接することの大切さを話されました。

吃音のわれわれは、人にどう話すかばかりに気をとられて、相手のことはお留守になりがちではないでしょうか。コミュニケーションはキャッチボールのようなものと言われます。それは、一方の話す行為だけで成立するのではなく、＜聞くー話す＞という相互の行為、「共同作業」として成立するものと考えます。人が相手に何か伝えようとするとき、「相手は聞いてくれるだろうか」「馬鹿なことを言うと思われないだろうか」など不安になる。その不安な気持ちが吃音を起こしやすくなると思います。そのとき相手が「どうぞ言ってください。ちゃんと聞きますよ」という態度を示してくれば、安心して話すことができるわけです。キャッチボールで言えば「どうぞ、投げてください」というメッセージがこちらに伝われば、安心してボールを投げられる。相手が受ける体勢をとらず、そっぽを向いていれば、なかなかボールを投げられない、というようなことです。相手への配慮、相手の話をよく聞くことで双方の気持ちが通じ合い、その通じ合いにたって、スムーズなコミュニケーションができると思います。

山崎さんが小路さんに啓発されたように、われわれは日常、吃音のある人、ない人、いろんな人と接する中で、コミュニケーションにとってよいことに気づき、学ぶわけです。言友会活動もそのような「気づき」の場にする事ができると思います。



11月3日（前半）スピーチ

参加人数：8人

担当・報告：市田

① 他己紹介…2人1組になり、相手の事をインタビューし、その後相手の事をみんなの前で紹介する。（原則メモを見ない・3分程度）

→ 事前の打ち合わせは10分位

感想：覚えられないため、発表時にメモをみたり、相手に聞いてしまう。

会員さんの以外な一面が垣間見れた。（アウトドア&海外旅行好き）

② テーマスピーチ…事前に一人ずつ、紙にお題を書いてもらい、その後シャッフルし、取ってもらい、お題の事を話す。

→ お題：最近面白かった事。休日に何をしているか。カタログギフト。吃音で無かったら、何をしたいか。etc

予想外に盛り上がりました。若い人から順番に発表してもらいました。

11月3日（後半）あなたもカウンセラー

参加人数8名

担当 報告：堀

新聞の人生案内に載った吃音の相談について、それぞれがカウンセラーになったつもりで回答を考えるとという試みです。

相談の概要：「30才接客業で働く吃音のある女性。日常会話ではあまり支障はないが、お客さんに『ありがとうございます』がなかなか出ず悩む。でもこの仕事が好きでやめたくない。この2年間接客で苦情は言われたことはないが、失敗しないかと心配で、ノイローゼになりそう。」

新聞での回答は伏せて、みんなの意見が出たところで、それを聞いて話し合いました。回答者（精神科医）は、苦情がないのは、一生懸命で、まじめな対応が評価されているから。「接客が好き」を大事にして胸を張ってやっていくことが大切と回答しています。この相談をとりあげたのは、回答がこうありたいと思うものだったからですが、これは正解というものではなく、参加者がそれぞれ自分の考え出して、意見を交換する機会にしたいと思ったからです。

この話し合いをきっかけにして、参加者で職場での悩みを持つ1さんからの実体験が出され話し合いました。職場で吃音についての上司の無理解。ハローワークの職員の対応のまずさなどが指摘され、なんらかの支援体制が必要などの意見がでました。吃音者の社会的支援を考えるひとつの機会になったと思います。

平成25年度 後期（10月～3月）例会予定

奈良言友会

- ・ 1月の例会は、第2日曜日（1月12日）に行いますので、ご注意ください。
- ・ 1月12日 例会終了後、場所を変えて新年会を行います。
- ・ 3月の定例会は、下記の特別行事に振り替えます。

3月8日（土）合同例会 in 奈良（近県の言友会が集まります）

（於：奈良市ボランティア・インフォメーションセンター）

	前 半 (13:30~15:00)	後 半 (15:00~16:30)
12月1日（日）	話し合い コミュニケーションで苦手なこと、困ること、自信がもてないことなどを話し合います。 担当 松井さん	スピーチ・プレゼン テーマを決め、あるいは自由にそれぞれの経験や見聞、所見などを発表します。スライドなど道具を使うのも可。
1月12日（日）	話し合い 「改善と受容」 「どもってもいいんだよ」と言われてもやはりどもりたくないのが本音ではないでしょうか。そこを話し合います。 担当 青木さん	発語トレーニングとスピーチ 発声・発語のトレーニングのあと、それぞれの吃音体験についてスピーチします。 担当 三島さん
2月2日（日）	演劇に挑戦 別人になったつもりで話すとももらないことがあります。今回は演劇に挑戦、役柄になり切って演じましょう。 担当 山崎さん	狂言のけいこ 中世にうまれた楽しいお芝居「狂言」のけいこをします。狂言の発声や息使いを用いてセリフのやりとりなどをします。 担当 西村さん

奈良言友会例会

日時：毎月第1日曜日 午後1：30 ～ 4：30

場所：奈良市はぐくみセンター（JR奈良駅西口 南へ歩3分）

奈良言友会 連絡先

堀 茂 〒636-0915 生駒郡平群町春日丘2-13-15

TEL/Fax0745-45-2857 090-9610-6393 Email: sigeru1030@yahoo.co.jp

奈良言友会HP <http://naragennyukai@hotmail.co.jp>
 奈良言友会会報誌「まほろば」 編集発行 山崎 貴浩